

令和 5度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回 こども・若者部会	参加者数	72 人	会場	Web会議 (ZOOM)
	日時	令和 5 年 6 月 28 日 (水) 13:30 ~ 15:30				

主 テ ー マ

- 1 部会体制の説明
- 2 今年度の活動計画
- 3 障がい児の福祉サービスに関わる課題の共有
- 4 意見交換

1 部会体制の説明
 こども・若者部会はオープン参加になっているので、多方面から多くの声をあげてもらいたいと思う。こども・若者部会は3つの連絡会がある。(支援ネットワーク連絡会、重心・要医療的ケア連絡会、こどもサービス連絡会)それぞれの連絡会で連携をとりながらやっていきたい。

2 今年度の活動計画

①こども・若者部会
 ・地域連携の強化、支援者の支援力の向上、地域資源の拡充を目指していく。

②支援ネットワーク連絡会
 ・義務教育終了後の支援体制について検討していく。また、良い取組等があれば共有していきたい。また、成長ダイアリーや障がい児ショートステイについても、課題の共有をしていく。

③重心・要医療的ケア児ショートステイについても、課題の共有をしていく。
 ・医療的ケア児に関わる看護師の判断の難しさの課題について、様式を活用した医療連携を知る機会を設ける。
 ・個別のニーズへ対応し、入浴、レスパイト等の社会資源の拡充を図っていく。
 ・医療的ケア児の保育園入園までの流れについて、今年度、上伊那圏域の事例をまとめて来年度共有したいと考えている。
 ・今年度も、医療連携がスムーズにいくように、こども病院と信大病院に市町村窓口一覧を送った。
 ・人工呼吸器等の電源確保について、他圏域の好事例の共有を考えている。

④こどもサービス連絡会
 ・サービスの質の向上、事業者間の連携、強度行動障がい児の受け入れに伴う事業所の困り感などの共有をしていく。
 ・制度の理解についても研修会なども考えていきたい。

3 長野県自立支援協議会療育部会について(報告)
 ・昨年度は、強度行動障がいについて、支援者向けに研修を行った。強度行動障がいについて、今後は各圏域で検討していくことになっている。上伊那圏域では、こどもサービス連絡会で扱っていく課題と思うので、困っていることなどあればあげてほしい。
 ・今年度は、義務教育終了後の支援体制について検討予定。

4 障がい児のショートステイに関しての取組状況の報告
 ○令和3年度相談支援専門員連絡会から拠点ワーキングに、障がい児のショートステイが不足していると課題があげられ、昨年度、ショートステイ事業所や児童福祉施設等宿泊を伴うところへヒヤリングを行った。その中で3つの課題をまとめた。
 ①人材確保⇒サービスの枠だけで考えるのではなく、協力家庭など他の資源の把握が必要。また、研修等も検討していく
 ②スキル・モチベーションについて、単価が低くて受け続けると赤字になる。⇒R4年度、上伊那圏域緊急ショートステイ促進事業で緊急時ショートに8市町村で加算をつけることになった。
 R5年度、対象施設を宿泊を伴うような事業も対象に拡大した。
 ③情報がない中で受け入れる負担がある⇒緊急になる前に、見学・体験ができるとよい。体験が制度化できないか検討していきたい。
 その他、介護保健施設等に基準該当についての周知をしたらどうかと意見があった。

○拠点ワーキングの今年度の方向性
 ①資源の把握と制度の理解
 ②個別ニーズを洗い出していく
 ③県の自立支援協議会へ発信していく
 拠点ワーキングは、課題についてどのように検討をすすめていくかを検討していくワーキングなので、今後こども・若者部会にお願いすることもあると思う。

5 成長ダイアリーの説明
 きらりあのホームページの資源マップの中で、成長ダイアリーがダウンロードできる。また、ポルトガル版もあるのでご活用ください。

6 意見交換
 ○児童発達支援での家族支援について、どのようなことをやっているか。
 ・ペアレントトレーニングの中で、子どもへの関わりのレクチャーをしている。また、月2回保護者懇談会をしている。
 ○重度の方のショートステイの問い合わせが多い。体験準備など支援する制度があればいいと思う。区分6相当の支援を

必要とする児であっても、制度的に区分が3までしか認定されない事に対して検討が必要ではないか。
○放デイに外国籍の児が増えてきた。両親が日本語が使えないので、持ち物等持参するものなど伝えることが出来なくて困っている。
通訳さんがいてくれるとありがたい。
○伊那養護学校の通学について、ひとり親家庭のためバスの通学時間に送ることが難しい。
・いろいろな家庭事情がある中で、通学の保証をどうしていくかが課題である
・特例等でも移動支援を利用出来たり、そのような相談にのってくれる場所が分からないので、窓口や役割分担がわかるようにして欲しい。
・今後もこのような家庭が増えると考えられるので、上伊那圏域の通学保証など実情を集めて課題を整理してもいいと思う。
○南信州きょうだいの会から：障がい児の兄弟はヤングケアラーになりやすいといわれている。そのような事例はあるか、どのような対応をしているのか聞きたい。
・ヤングケアラーの捉え方が、業種によって違うと思う。福祉の視点からはヤングケアラーだと思っても、行政からは困っていないから、お世話をしたくてやっているといいヤングケアラーではないという意見の相違がある。本人の言葉にならない声を聞くところから家族支援が始まると思う。

まとめ

こども若者に関する課題が共有できた。これらの課題をどの連絡会で扱うか整理し、今年度の活動に反映していく。取り組み内容を最後の部会で報告していく。

次回